



令和4年度 たむら支援学校特別支援教育セミナーより

11月1日(火)に、令和4年度たむら支援学校特別支援教育セミナーを実施しました。茨城大学教育学部教授 新井英靖氏を講師としてお招きし、『資質・能力を育む各教科の授業づくり～学習評価の充実に向けて』というテーマで御講演いただきました。その中で、評価規準や評価基準をふまえた学習評価の方法などについて理解を深めることができました。内容の一部を以下のように整理しましたので、ご確認ください。

茨城大学教育学部教授 新井英靖先生の講演内容から

「評価規準」と「評価基準」の違い

評価規準

単元の目標が大まかに達成できたかどうかを記したもの。
(「単元の目標」に続けて記す)

単元の目標

評価基準

本時の授業のなかで具体的にどの場面で、どのように評価するのかを記したもの。
(「支援上の留意点」に記す)

本時の目標

＜評価規準と評価基準＞

評価規準とは、単元の目標が大まかに達成できたかどうかを記したものであり、**単元や学期を通して身につけていくことを目指すもの。**

評価基準とは、本時の授業のなかで具体的にどの場面で、どのように評価するのかを記したもので、**授業で「できる」ようになることを目指すもの。**

小学部 国語科の例より

単元計画⇒目標

評価規準

●伝えたいことを思い浮かべ、身振りや音声などで表すことができたか。

単元／学期を通して、身につけることを目指す

(特別支援学校学習指導要領各教科等編、p85「思考力、判断力、表現力等」の「聞くこと・話すこと」の目標から)

授業計画⇒目標

評価基準

●写真から楽しいと思ったことを一つ選ぶなど、手掛かりを用いて思い浮かべ、指さして伝えたり話したりすることができたか。

授業で「できる」ようになることを目指す

(特別支援学校学習指導要領各教科等編、p85「思考力、判断力、表現力等」の「聞くこと・話すこと」の目標のあとに記述されている解説内容から)

学習指導要領に準拠した「評価」

評価規準(例)

(「聞くこと・話すこと」／小学部1段階)

知識及び技能

身近な人の話し掛けに慣れ、言葉が事物の内容を表していることを感じる事ができたか
(各教科等編、p82の「内容」から抜粋)

思考力、判断力、表現力等

伝えたいことを思い浮かべ、身振りや音声などで表すことができたか
(各教科等編、p85からの抜粋)

●自分の好きなキャラクターや動物、乗り物を選ぶことができたか

写真コメントーターになろう

●自分で選んだ物の特徴を言葉や身振りで表現することができたか

●遠足の写真を見て、行った場所や誰が行ったかを指さすことができたか

楽しかった遠足の思い出を話そう

●遠足で楽しかった活動を思い出して、その時の活動を身振り等で再現しようとしたか

評価基準(例)

学習単元

評価基準(例)

学習単元に応じた評価基準の設定

学習評価の充実に向けて

- 学習指導要領の「目標」や「内容」をもとに「評価規準」「評価基準」を考える。
- 授業の中で、「目標」の達成につながるような具体的な子どもの様子を評価する。
- 各授業で設定された複数の「評価基準」を段階的に達成していくことで、「評価規準」の達成につながる。

たむら支援学校の取り組み

たむら支援学校では、校内研修を中心に『クラスシート』を活用して、以下のように単元評価を行い授業づくりに取り組んでいます。新井先生の講演内容をふまえて、たむら支援学校での取り組みについて整理しました。
 * 活用上の都合、クラスシートの様式を一部変更しています。

単元目標・単元計画の設定 ～クラスシート・プランの活用～

全体テーマ 『児童生徒の学びを深める授業づくり』～「伝える力を培うために」～
 学部テーマ 『「伝えたい」気持ちを育て、伝える手段や相手をわがめる授業づくり』～

クラスシートプラン (各教科 ver)

授業日	2段階 (火、木)	教科名・授業等	【単元計画】	知 体	思 判	学 人
新科等名・単元 (題名等)	算数 「ならべてみよう かぞえてみようくらべてみよう」	算数 1段階・2段階 領域:「数と計算」	【時 数】 1時間			
知識及び技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性等	【単元計画】			
1段階	2段階	1段階	2段階			
2段階	3段階	3段階	4段階			

○学習指導要領各教科の「内容」等をもとに、「知識及び技能」「思考力・判断力、表現力等」「学びに向かう力人間性等」にそって単元の目標を設定していきます。

○「主体的・対話的で深い学び」の視点をふまえて単元計画を具体的にしていくことで、単元の目標に迫る段階的な目標や学習内容が明確になります。

評価規準をふまえた単元評価 ～クラスシート・チェックの活用～

	「知識・技能」	「思考・判断・表現」	「主体的に学習に取り組む態度」
評価規準	<ul style="list-style-type: none"> ①ものの有無に気付いている。 ②5までの範囲で具体物を数唱したり、具体物を取ったりしている。 ③絵カードの並べ方を育て、多い少ないの絵カードを並べ、上と並べてあるりんごカードの並べ方を指折りして並べようとする事ができる。そして、1つおりに1枚を並べようとする事ができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ①数唱やものとの関係に着目し、数のもつ大きさやよさを生活に生かしている。 ②「前したどの数にりんごカードを貼る」という指示を理解して活動に取り組んだ。貼ったどの数にりんごカードを貼る事ができた。数と一組にりんごカードを貼るしなから数えようとしていた。並べた3つの 	<ul style="list-style-type: none"> ①教室に関心をもち、算数で学んだことの楽しさやよさを感しながら興味をもって学ぼうとしている。 ②学習内容に関心をもつことができ、自分から絵カードを並べたり教師の掛け声に合わせて一緒に数唱したりと、意欲的に取り組むようになっていく。
配慮手立て	<ul style="list-style-type: none"> ○学習の見直しをもつことができるように、見本を示して、何をやるのかといった学習内容を具体的に提示する。 ○言葉とイメージが一致できるように、イラストや具体物を提示しながら、言葉と一緒に説明するように促す。 ○できたときや自分から積極的に取り組む際には特賞し、自信をもって学習活動に取り組むことができるようにする。 		
次時への課題 (教科「見方・考え方」をもとに)・授業改善に向けたアイデア	<ul style="list-style-type: none"> ①AとBについては、指示された個数をとることについては、見本カードを手掛かりに1対1対応で絵カードを並べている段階である。指示された個数をとることを繰り返して取り組んでいくことで、並べた絵カードをもとに数を繰り返すこと、表を活用して表上の数字と個数を対応させることなどを通して、数字と数量の結びつきを意識して取り組み、習得できるようにしていく。 ②Cについては、今回の学習を継続して数字と数量の比較について理解を深めていくようにする。Dについては、数字をまとまりでとらえていく学習や数唱を生かして、数や図、表を活用して根拠をもとに思考、判断、表現できるような学習を取り組むようにしていく。 		

○単元の目標の文末を「～している」と変換することで、評価規準になります。

(『学習評価参考資料』文部科学省より)
 ○クラスシート・チェックを活用することで、「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3観点に沿って評価することができます。

○児童生徒一人一人について、単元のまとまりを通して、評価基準をふまえた評価を蓄積していくことで、単元を通してどのようなことを学んだのか、どんなことが課題だったのかを整理していくことができます。

○児童生徒一人一人について単元評価を行っているので、個別の指導計画や要録等の評価にも生かすことができます。

○『次時への課題、授業改善に向けたアイデア』では、単元評価をもとに、児童生徒の学びの姿はどうであったか、それをふまえてどのような授業展開が必要であったかなど検討し、次の単元でどのような授業を行っていくべきか、ということ整理することができます。

本校で使用している「クラスシート・プラン」や「クラスシート・チェック」を活用することで毎時間の授業で何を意識して授業を行うべきかが整理でき、各単元ごとに各教科等の資質・能力を育む授業を展開することができます。そして、児童生徒の学びの姿に向き合うことで、一人一人の学習評価や単元評価の充実につなげていくことができます。児童生徒一人一人の各教科等の目標達成につながる姿を評価し蓄積していくことで、よりよい授業づくりを目指していきましょう。